

建築物エネルギー消費性能基準等における一次エネルギー消費量算定方法の変更について

平成 28 年 4 月 1 日

第九章「太陽光発電設備」の一部を下記のように変更します。

変更前 Ver.03（住宅・住戸の省エネルギー性能の判定プログラム Ver.01.15）	変更後 Ver.04（エネルギー消費性能計算プログラム（住宅版） Ver.2.0）
<p>第九章 太陽光発電設備 (略)</p> <p>3. 用語の定義 <u>(略) (第 3 節全文)</u></p> <p>4. 記号及び単位</p> <p>4.1 記号 <u>この計算で用いる記号及び単位は表 9.1 による。</u> 表 9.1 記号及び単位 (表 9.1 省略)</p> <p>4.2 添え字</p>	<p>第九章 太陽光発電設備 (略)</p> <p>3. 用語の定義 <u>第一章の定義を適用する。</u></p> <p>4. 記号及び単位</p> <p>4.1 記号 <u>本計算で用いる記号及び単位は表 1 による。</u> 表 1 記号及び単位 (表 1 省略)</p> <p>4.2 添え字</p>

この計算で用いる添え字は表 9.2 による。

表 9.2 添え字

(表 9.2 省略)

(以下、表番号の変更については省略する)

(略)

9. 太陽電池アレイの総合設計係数

太陽電池アレイの総合設計係数 K_p は、式(3)により表される。

$$K_{p,i,d,t} = K_{HS,i} \times K_{PD,i} \times K_{PT,i,d,t} \times K_{PA,i} \times K_{PM,i} \times K_{IN,i} \quad (3)$$

ここで、

(略)

$K_{IN,i}$: 太陽電池アレイ i のインバータ回路補正係数 (表 9.4 の値)

である。

(略)

太陽電池アレイ i のインバータ回路補正係数 $K_{IN,i}$ は、表 9.4 の値に依らず、式(4)により表される値を用いることができる。

$$K_{IN,i} = \eta_{IN,R} \times 0.97 \quad (4)$$

(略)

複数台のパワーコンディショナが設置され、かつ、全てのパワーコンディショナの定格負荷効率が明らかである場合は、そのうち最も定格負荷効率の低いパワーコンディショナの値を採用すること。複数台のパワーコンディショナのうち定格負荷効率が不明なものが 1 台以上ある場合は、太陽電池アレイ i のインバータ回路補正係数 $K_{IN,i}$ として表 9.4 の値を用いること。

(以下、略)

本計算で用いる添え字は表 2 による。

表 2 添え字

(表 2 省略)

(以下、表番号の変更については省略する)

(略)

9. 太陽電池アレイの総合設計係数

太陽電池アレイの総合設計係数 K_p は、式(3)により表される。

$$K_{p,i,d,t} = K_{HS,i} \times K_{PD,i} \times K_{PT,i,d,t} \times K_{PA,i} \times K_{PM,i} \times K_{IN} \quad (3)$$

ここで、

(略)

K_{IN} : インバータ回路補正係数 (表 4 の値)

である。

(略)

インバータ回路補正係数 K_{IN} は、表 4 の値に依らず、式(4)により表される値を用いることができる。

$$K_{IN} = \eta_{IN,R} \times 0.97 \quad (4)$$

(略)

複数台のパワーコンディショナが設置され、かつ、全てのパワーコンディショナの定格負荷効率が明らかである場合は、そのうち最も定格負荷効率の低いパワーコンディショナの値を採用すること。複数台のパワーコンディショナのうち定格負荷効率が不明なものが 1 台以上ある場合は、インバータ回路補正係数 K_{IN} として表 4 の値を用いること。

(以下、略)